

# 三重南紀農業協同組合

## 自己改革の取組状況について



### 自然豊かな町、受け継いだ地域の農業を次世代へ

JAグループが共通目標として掲げる「農業者の所得増大」・「農業生産の拡大」・「地域の活性化」の実現に向けた様々な取り組みを進め、当JAは、平成28年5月の経営管理委員会・理事会において自己改革計画「JA三重南紀 持続可能な農業への改革と元気な地域づくりへの取組」を決議し、取り組んでいます。

自己改革の実践に対する真価が問われる中、主要取組み項目の進捗状況と成果についてご報告します。

自己改革を確実に実践し皆さんにとって「JA があって良かった」と思って頂けるように、自らが取り組む自己改革をおこなっております。

**JA三重南紀**

# 私たちJAグループが改革に取り組む理由

我が国日本では、農業者の世代交代期を迎え、農業の構造転換期を迎えていました。これまで長く地域の農業・農村を支えてこられた農業者の方々のリタイアにより、農業生産額も減少傾向にあります。

一方で、大規模な農業経営体が増加し、新規就農者や法人経営による雇用就農も増えつつあります。

これからも安全・安心な農畜産物を提供し続けるために地域の農業を、“魅力ある農業”として、夢や希望にあふれる次代につないでいくことが私たちの使命です。

このため、JAグループでは、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」を目標に掲げ、“魅力ある農業”を実現するための改革に取り組んでいます。



## 組合員とともに、JAのあるべき姿を考える。

J Aグループでは、「食と農を基軸にして、地域に根ざした協同組合」の確立に向けて、①農業者の所得増大、②農業生産の拡大、③地域の活性化の3つの基本目標を掲げ、「自己改革」を進めています。

具体的な取組内容は、各JA単位で組合員と徹底的に話し合いを行い、その地域実態に即した取組を進めることとしています。



## 農業者の所得増大

消費者のライフスタイルや流通形態の変化などを踏まえて、「消費者がより必要とするものを作る」という考え方で立った生産・販売方式に転換していく、JAによる販売力を強化していきます。

そのため、水田作目や園芸特産物の生産振興、六次産業化の促進、産地からの情報発信によるブランド力強化などに取り組んでいます。

併せて、生産資材の価格引き下げや、低コスト生産技術の導入、大口購入による割引など農業経営のトータルコストの削減を目指しています。

## 農業生産の拡大

高齢化による人口減少や農業者の後継者不足など農業生産基盤が弱まっています。今後も地域農業を持続可能なものにしていくため、農地の集積化や担い手対応を強化します。

県域段階の連合会・中央会では、「担い手サポートセンター」を設置し、JAと連携しながら、担い手経営体への事業提案を行っています。

また、全国で総額2兆円規模の助成事業「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を実施するなど営農・経済事業を強化しています。

## 地域の活性化

J Aでは、営農・経済事業だけではなく、生活事業、信用事業、共済事業など、全国で総合事業を展開しています。

農村地域の人口減少が急速に進む中、JAの事業は「地域インフラ」としての機能を維持・強化していきます。

また、女性組織等による「助け合い活動」や「JA健康寿命100歳プロジェクト」などの福祉活動に、組合員が自ら参画し、相互扶助していく「協同活動」を強化し、地域コミュニティの活性化を支援していきます。

## 農業をやっていてよかった

組合員のそんな想いを“つなぐ”ことが、私たちJAの仕事です。

丹精込めて作った農畜産物が、食卓に届き、消費者に美味しく食べてもらうこと。

部会の中で、農家の仲間達と生産技術や農業経営のノウハウを共有しながら、世代を超えて、切磋琢磨すること。

子どもたちに、地元の食や農の大切さを知つてもらい、農業への理解の種をまくこと。

地域の農業を、農業者とともに、未来へつなぎたい。

J Aは、皆さまの伴走者として、営農と生活をサポートします。

## その一口が、未来の農業を耕します

ひとりでは解決することが難しい課題でも、人々が集まり、助け合えば、きっと解決できる。

地域の若者の元気な力や年配者の知恵など、ひとりひとりの多様性を活かし、それぞれができる範囲で、力を合わせて乗り越えていくこと。

それが私たち「協同組合」の原点です。

今、地域の農業は、農業者の世代交代や耕作放棄地の増大など大変な転換期を迎えています。

安全・安心な地元の農畜産物を食べていたくことや、JAの事業をご利用いただくことが、この地域の農業の支えになっています。

## 一緒に育てよう「とうもろこし」I

### 小学生&JA職員の農業体験

#### 有馬小学校4年生の食農教育



3月19日「ポットへ種まき」



種まきしたポットを手に

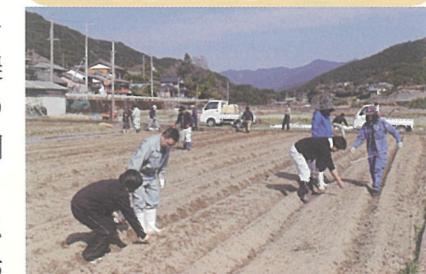
J A三重南紀合併20周年記念「スイート定期貯金」と題して、地元小学生の農業体験やJA職員の農業に関する知識の向上を目的に「とうもろこし」栽培を開始しました。

自分たちの作った「とうもろこし」をスイート定期貯金に応募していただいたお客様にお渡しするため、県普及センターやJA事業サポートセンターの担当者にご協力いただきながら、各部署のJA職員による種まきを行いました。

また、有馬小学校4年生(当時)31名を対象に、栽培方法や畑に植えるまでのポットの管理の授業を行いました。

4月には、新5年生となった生徒たちと一緒に、畑に植えかえます。

とうもろこし「ゴールドラッシュ」栽培に取組むJA職員

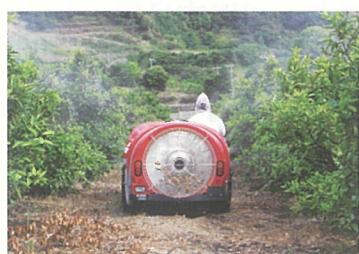


3月13日「種まき」



4月3日「マルチ穴あけ」

## ～主な新規事業の取り組み～



「農業所得増大・地域活性化応援プログラム助成金」の活用  
(平成28年度)  
実績金額2,773万円)

◀農機具等リース応援事業  
(助成)



子会社株式会社オレンジアグリを設立(H27.10.1)し、農業経営の取り組み等を実施

◀株式会社オレンジアグリ

- 無料職業紹介事業(農繁期に農家にアルバイターを紹介)
- 新農業資金の創設
- 高齢者地域見守り活動(H29.11熊野市・御浜町・紀宝町と協定)



タイ王国向け柑橘輸出  
(H22年度開始)

◀タイ輸出検査



移動金融車「いぶきII号」の運行

◀移動金融車「いぶきII号」



「JA共済地域・農業活性化促進助成金」の活用  
(平成28年度)  
実績金額435万円)

◀地域・農業活性化(助成)



スイート定期貯金の取り組み(「食農教育」「休耕地対策」等目的)

◀スイート定期貯金「とうもろこし栽培土壤作り」



移動スーパーの導入

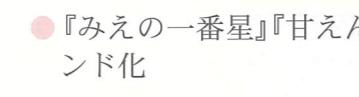
◀移動スーパー  
「ほほえみ号」

## ～継続事業の取り組み～



ほほえみかん(地産地消)の取り組み  
(H24.10.6オープン)

◀ほほえみかん周年祭



『みえの一番星』『甘えんぼう』(柑橘)等のブランド化

●柑橘加工品(山崎製パン、ジュース等)の取り組み

## 「総合事業」のご利用で、地域の農業が支えられています

JAでは、組合員の皆様の営農や暮らしに役立てていただけるよう、農業関連事業のほか、信用事業(JAバンク)、共済事業(JA共済)、直売所事業(JAファーマーズマーケット)、生活事業(ガソリンスタンド)など様々な事業を行っており、これらを「総合事業」と呼んでいます。

地域の農業にとって大事なJAの農業関連事業だけを見ると、収支状況は厳しくはありますが、JAは総合事業だからこそ、農業施設への投資や、組合員の営農をお手伝いする営農指導員の配置が可能となっています。



## 中晩柑をタイへ輸出

### 鈴木知事が合同輸出検査を視察

3月6日(火)、JA統一選果場において、中晩柑「せとか」「不知火」の輸出検査を実施しました。

タイへは平成22年から本格的に輸出が開始されていますが、病害虫などの検査条件が非常に厳しく、輸出量が伸び悩むほか、検査費や防カビ処理などの費用もかかり大きな負担がありました。

輸出検査の簡素化や輸出検査方法の見直しなど輸出緩和にむけて、鈴木英敬知事が同日行われた、合同輸出検査を視察されました。

カンキツ生産者には「产地を元気にして子供や孫たちに繋いであげたい。県も頑張るので一緒に乗り越えていこう」と励ましの言葉をいただきました。



鈴木英敬知事が生産者に激励

## 一緒に育てよう「とうもろこし」Ⅱ

### 小学生&JA職員の農業体験

有馬小学校5年生の食農教育



5月2日「草抜き・追肥」

5月22日「電柵設置」

### 神内小学校を訪問



教材を進呈する様子

3月30日(金)、JAバンクより「農業とわたしたちのくらし」2018年度版が発行され、授業の教材に活用していただくことを目的に、JA三重南紀管内の小学校(養護学校含む)19校に配布しました。

神内小学校にも訪問させていただき、「日本の農業の授業では『わたしたちの食生活と食料生産』の補足資料として活用していく予定です。」とおっしゃっていました。

## 生産コスト削減へ！

### 早期予約で特別価格

J A三重南紀の購買事業では生産者の生産資材コストの低減を目的に、年間で使用する肥料や農薬を早期にご予約いただき、一括仕入れすることによって低価格で提供する"年間予約注文"に取組んでいます。

5月8日(火)、経済部職員はメーカーの担当者にご協力頂きながら、配達に向けて予約いただいた資材をダンボールに詰める作業をおこないました。



予約資材を箱詰めする様子

## 温州みかんの品質向上めざす

### 開花調査＆当面の管理講習会

4月27日(金)、管内の園地をまわり温州みかんの開花調査をおこないました。平年に比べて約1週間早めの開花となりました。



「開花の様子」



4月27日「開花調査」



4月25日「管理講習会」統一選果場

4月25日(水)、各集荷場において「温州みかんの当面の管理講習会」を開きました。今年は、3月から4月にかけて平均気温が平年に比べて高い日が続いた影響なのか、みかんの花がいつもより早く咲き始め、今年は花も多く咲いていました。

## 一緒に育てよう「とうもろこし」Ⅲ

地元小学生の農業体験学習・JA職員の知識向上を目的とした「とうもろこし」栽培。

6月22日(金)、有馬小学校5年生の31人が大切に育てたとうもろこしを収穫しました。

朝採れた新鮮なとうもろこしは、その日のうちに給食へ。かぶりついた児童たちからは「甘い！」「美味しい！」との声が口々にあがり、自分たちで育てた野菜の味は格別のようでした。



一生懸命収穫する児童たち

収穫の仕方を指導するJA職員



とうもろこしにかぶりつく児童たち



とうもろこしと5年生のみんな

7月2日(月)には、今回のとうもろこし栽培体験の感想を寄せた色紙をいただきました。ほほえみかん入り口の掲示板に飾らせていただけております。有馬小学校のみなさん、ありがとうございました！



色紙を受け取る山本マネージャー



色紙と一緒に笑顔がまぶしい記念写真

## 集荷場でみかん出荷をサポート

9月13日(木)から「味一号」の初売りが始まりました。みかんの採果で生産者が忙しくなる時期に合わせて、職員が荷降ろし作業のお手伝いをしています。

9月14日(金)は、4月に入組した金融課の職員が初めてのお手伝いをしていました。

慣れない作業ですが、生産者さんに「助かるよ。ありがとうございます！」と声を掛けていただくと笑顔になります。



荷降ろしを手伝う新入職員(左)

## J A三重南紀 無料職業紹介所

### すまいるあっと運営中

J A三重南紀では、御浜町と連携して無料職業紹介所「すまいるあっと」を開設しました。農家の負担を減らすために、求職者向けの窓口をJ Aと町が務め、農繁期の人手を確保したい農家と農作業を希望する人の条件をマッチングした上で雇用主に紹介します。

今年度は広報誌などを通じて組合員に声を掛け、16戸の農家が求人登録しました。求職者については、インターネット交流サイト(SNS)やホームページ、様々な場所へのポスター掲示で募集を呼びかけました。



9月10日(月)

味一号採果開始日に早速収穫するアルバイター(左)

### 味一号・極早生みかん収穫 アルバイターが大活躍!

9月10日(月) 超極早生温州みかん「味一号」の採果が始まりました。志原の丸山昇吉さんの園地ではアルバイターの西堀さんが収穫作業に励んでいました。初めての作業だそうですが、パチパチと軽快に採果鉗を使い収穫していました。

9月23日(日) J A三重南紀の子会社株式会社オレンジアグリで2名のアルバイターさんが収穫作業をしていました。2人は県内松阪・多気からの応募で、初めての作業に向けてインターネットで収穫方法を調べるなど準備をして来てくれました。

管内の様々な園地でアルバイターさんが大活躍しています！



9月23日(日)

極早生みかんを収穫する遠方からのアルバイター